ALL JAPAN RADIOLOGY

日本医学放射線学会，日本放射線科専門医会・医会，日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会は，2020年にAll Japan Radiologyとしての話し合いの場となる放射線診療4団体連絡協議会を設けました。今春開催の第31回日本医学会総会2023東京では，4団体の協力の下，放射線診療に関する展示が予定されています。そこで，特別企画では4団体の代表に，より良い放射線診療に向けた活動についてご紹介いただきます。

特別企画　レントゲン博士没後100周年を迎えてのAll Japan Radiology

放射線診療体制の今日の動向を探る！

企画協力：市田隆雄　大阪公立大学医学部附属病院中央放射線部保健主幹兼技師長

特別企画　レントゲン博士没後100周年を迎えてのAll Japan Radiology
放射線診療体制の今日の動向を探る！

序　論：放射線診療４団体連絡協議会の概要

市田　隆雄　大阪公立大学医学部附属病院中央放射線部

本邦での放射線の取り扱いは，世界の中でもとりわけ繊細さが求められる背景が存在する。2014年にイギリスのデータを用いて，本邦でのCT被ばく線量が多いことが報道機関を通じて問題視されていた。その翌年には，ドイツやフランスのデータでさほど違いがないことが公開されていても，報道機関で取り上げられることなく過ぎ去ったのは，本邦独自の風土が作用していることが否めない。こうした背景の中で最適な放射線診療を行っていくには，幅広い視点で国民，国政，社会に接して，よりわかりやすい情報発信を行っていくことが大切と思われる。

さて，この放射線診療を提供しているのは放射線科医による診断と治療，その放射線科医の指示の下での診療放射線技師による各種の画像情報である。そして，その専門職の進むべき方向性の舵取りをしているのが，放射線科医の場合は日本医学放射線学会（JRS）と日本放射線科専門医会・医会（JCR）であり，診療放射線技師の場合は日本診療放射線技師会（JART）と日本放射線技術学会（JSRT）である。このような団体のスムーズな連携が，国民，国政，社会へのより良い情報発信に寄与すると信じている。

本稿では，この4団体の最新の動きを各団体から述べていただく。そして，放射線診療体制をつかさどる放射線診療4団体連絡協議会について，その成り立ちと経緯をご紹介したい。

全国の放射線診療の様相

全国の放射線科医，診療放射線技師は，どなたもが，より良い放射線診療を行うために日々のご努力をされている。全国の施設によって個々の背景に合わせて，その最適性を導くための運営がされているが，その内容を保証するためには地域の厚生局や保健所における法令

〈0913-8919/23/￥300/論文/JCOPY〉